赤井小学校の六年生のみなさんへ

こんにちは。夏休み中なのに「国語の学習会」に参加してくれてありがとうございます。みなさんと一緒に授業ができてうれしかったです。感想文を読んで、みなさんも喜んでくれたことが分かり、ほっとしています。

返事が、遅くなってしまいごめんなさい。一人ひとりの感想文にコメントを書いてお返しします。後で読んでみてください。

さて、『海のいのち』の授業の計画に入れておいたことがあります。それは、感想文を読んでまとめの授業をすることです。この授業は、紙上での授業になります。さっそく始めます。考えながら読んでみてください。漢字が多いですが、みんなで協力して読んでください。

感想文を使った授業

一総評（学級全体の印象）

『海のいのち』を読んでの感想ばかりでなく、授業の感想も書いてくれたので、その点にも触れたいと思います。

よい点（三つ）

まず、夏休み中なのにわざわざこの学習会に参加してくれ、一生けんめいに取り組んでくれたことです。いつでも、自分の精一杯の力を出すという姿が感じられます。この気持ちが、自分を育てるのです。これからの残り少なくなった小学校生活が充実したものになるなと、うれしく感じました。今後の活躍を期待しています。

次に、感想文を書くのは難しいと感じている子がいるものですが、全員、よい感想文が書けています。それは、自分の感じたことを具体的に書き、そのことについて自分の考えが書けているからです。

ここで、「感想文」という言葉を考えてみましょう。

「感」は、どういうことですか。そうですね、「かんじる」ことです。「感じる」のはどこでしょうか。そうそう、「目・鼻・耳・舌・手」です。これを五感（目＝視覚、……舌＝味覚、手＝触覚）というでしょう。その五感を通して感じている場所を「心」ともいうでしょう。

では、「想」は、どういう意味でしょうか。「想う＝思う＝考える」ことです。そこで、何を考えるかというと「心に感じた」ことです。「感じている自分の心」をよく考えて（観察して）書くと立派な感想文になるのです。感じることは人によって違いますし、同じように感じても、それをどう考えるかは人によって違います。そこが、感想文の面白さであり、よさなのです。

その意味で、みなさんの感想文にはよさがあるのです。

ちょっと余談です。算数の教科書の編集責任者の藤井教授が「課題解決型学習」の教科書として世界に誇るものです、と話しておられます。藤井教授は、算数の指導法や教科書について世界との比較研究をされています。その教科書の中でも授業の最後に学習感想を書くようにとすすめています。感想を書くことで自分を育てられるのです。

最後に、感想文の書き方です。段落を意識して書いている人がたくさんいます。段落をつけるということは、話のまとまりを意識して書くということです。それは、書いている自分を、ながめている自分がいて教えていると考えてもいいでしょう。これは、物事を客観的に考えられるようになってきたことを表しています。脳が変化（成長）してきているということです。小学校五年生ぐらいから変化してくるようです。保健の授業で体の成長の勉強をするでしょう。ホルモンの働きで体つきが大人に変化していく話です。脳も変化しているのです。

気をつける点

大きな字で鉛筆の色を出すように書くことです。それは、集中力が養われるからです。また、小学校時代にするべき訓練だからです。

二個評（一人ひとりへの一言、三行程度）順不同

・　　さん

さんは「場所を書き出すことで物語の内容がすうっと頭に入った」と書いています。心配していたことが自信になりましたよ。漫画も世界に誇る日本の文化です。絵本にも目が向いたのが素敵です。

・　　さん

さんに喜んでもらえてうれしいです。感謝の気持ちが伝わる感想文になっています。この話のクライマックスの所が印象に残ったようですね。その感覚が素晴らしいです。七の絵と結びつくでしょう。

・　　さん

整った字を書く　　さんです。老眼鏡を使う身になるとそんな親切が嬉しいものです。最後の日には、いつもより時間がはやく過ぎていきましたと、三日間で成長した姿が見えます。今後に期待します。

・　　さん

国語研修会に参加して、自分のことを考えています。そこが、さんの立派なところです。恥ずかしがらずにゆっくりはっきり読むことの大事さに気づいています。これは、英語学習にも通じることです。

・　　さん

さん、こちらこそよい勉強になりました。『海のいのち』という話を他の教科書で授業していました。今回、絵本ということに気づいて授業を変えてみました。春希さんの感想でこの方法を続ける勇気が湧いてきました。もっと絵を見てみます。ありがとうございます。

・　　さん

さんは、今回の研修会で緊張しないとよく読めることに気づきました。一回目より二回目の方がしっかり読めたでしょう。毎日、家で音読を続けることが、自信につながります。三か月やってみよう！

・　　さん

さんは、消しゴムを使わないことのよさに気づいています。自分のノートに書くのですから、これは日記（日誌）を書いているのと同じです。その時の自分の姿が残るのです。一年生のノートを見ると、自分の成長した姿がはっきり分かるでしょう。間違いも歴史なのです。

・　　さん

いろいろと私のよいところを見つけて書いてくれましたね、さん。うれしいです。教科書の挿絵は、工夫されていることが多いものです。絵をいろいろな角度から考えると面白い発見がありますよ。

・　　さん

学習感想がしっかり書けている　　さんです。第一段落で何を書くかを示し、第二段落ではクエと出会った太一の気持ちの変化を、第三段落では絵から読み取ったことを具体的書き、最後の段落でまとめるようにしています。一枚にしっかりとまとめているところが立派です。

・　　さん

さんの喜んでいる姿を想像しています。私の授業の工夫を認めてもらえてうれしいです。授業でやり残したことを後で記します。この話の面白さが、彩風さんにもっと感じてもらえるとよいのですが。

・　　さん

さんの頑張りに拍手を贈ります。家でするとよいことを一つ教えます。毎日、国語の本を大きな声で音読し、その後、読んだところをできるだけ見ないでノートに書く訓練です。百字程度でよいです。小学校卒業するまで続けられたら中学校での成績が伸びます。挑戦！

・　　さん

さんは目の付け所がよいです。図書室の絵本を使って四年生ぐらいに読み聞かせをしてみてください。もっと、味わい深いものになりますよ。「川のいのち」「山のいのち」の絵本も読んでみましょう。

三まとめ（別紙に私の見方を書きます。自分の考えと比べてみてね。）

絵本を読むという気持ちで授業を考えましたが、時間の都合もあり、十分に絵を使って考えることができませんでした。そこで、復習のつもりでもう一度絵を使って少し考えてみましょう。

第一問

『海のいのち』を読んで、画家の伊勢さんの心に一番響いたことを描いたのは何番の絵でしょうか。その理由も考えてみましょう。また、五の絵からどんなことが感じられますか。

第二問

太一が、父の海にもぐり始めて一年過ぎたころ見つけたクエのことをいろいろな書き方をしています。思い出してみましょう。

最初は　　で、次が　　かもしれないで、それから、この　　になり、この　　をとらなければと、短い時間に変化しています。立松さんはそうすることで読者に何を感じて欲しいのでしょうか。

第三問

『海のいのち』は、主人公の太一が村一番の漁師であり続けられるようになった話です。それは、太一が何に気づいたからでしょうか。

ヒントは、次のように話を整理すると分かります。

子供の頃は父のような漁師を夢見ていました。が、父の事故死でその夢は実現しませんでした。でも、父と同じ瀬で一本づりの名人与吉じいさに弟子入りし、村一番の一本づり漁師と認められるまでになりました。その与吉じいさが亡くなったときに「覚り」ました。さらに、その覚りが深いものになったのが、父を破ったかもしれない瀬の主と対面したときです。

参考（他の教科書を使ってした授業より　感想文を使った授業）

まぼろしの魚

小　夢

①ぼくは、海の命の中で、太一がかっこいいと思いました。

②太一はお父さんといっしょに海に出たいと思っていたのに、お父さんはしんでしまいました。けど、そこであきらめずに与吉じいさの弟子になったのが、いいなあと思いました。そして、与吉じいさは死んでしまったけど、太一は与吉じいさに認められました。とくに、「太一、ここはお前の海だ。」という所がいんしょうにのこっています。

③屈強な若者になった太一が父の海にもぐっているうちに、自分が追い求めている魚に出会いました。もしかしたら、この魚がお父さんを破った魚なのかもしれないのに、殺さずにお父さんだと思い、それをだれにも話さなかった太一は、すごいかっこいいと思いました。

④ぼくも太一みたいになりたいです。

「小　夢」さんの感想文のよいところを考えます。

○　最初の段落の「かっこいい」と最後の段落の「ぼくもなりたい」がうまく合っていてまとまりのある感想文になっている。

○　②③段落では、なぜそう思うかが具体的に書いてある。どの言葉でしょうか。

②　あきらめずに　認められた　ここはお前の海だ

③　誰にも話さなかった　屈強な若者　殺さず

○　本文の中に「まぼろしの魚」と出ていないのでどうしたらよいでしょうか。

③の「追い求めている」と「魚」の間に「まぼろしの」をいれる。

・　題を変えるとすると　「**かっこいい太一**」とするとよい。

三つの問に対する私の見方を記しますので参考にしてください。

第一問

予想として「絵の大きさにも表れるだろう。主人公太一の表情がはっきり分かるような絵になるだろう。また、それは、印象のはっきりした絵になるだろう。」が浮かぶでしょう。で、七の絵になりますね。

太一の表情を見ると、どんな感じを受けますか。また、全体の印象はどうですか。太一の引き締まった顔を強調するような背景の描き方や屈強な体からも迷いを乗り越えたようにも感じられます。そして、最後の八の絵と結びつけると、よりこの話の味わいが深まります。

五の絵は、海の中に差し込む日の光の美しさとその動きの面白さを想像させます。本文と合わせて考えると、海中の風景と太一の高ぶる気持ちが重なります。この場面を映画にするとどんなバック音楽を流したいですか。この絵（場面）を入れることによって、どんな話の展開になるのかと期待をもたせてくれますね。

第二問

まぼろしの魚 → 瀬の主 → 大魚 → 魚、と変化しています。

こう考えると「まぼろしの魚」「瀬の主」の意味を考えておくことが大事になります。「まぼろし」という言葉には、現実に見ることができないとか、誰も見たことがないとか、めったに見られないというようなニュアンスがあります。また、「主」という言葉には、「主人」とかにも使われているように一番偉いという意味がありますが、「主」には、不思議な魔力をもっているものという雰囲気もあります。

ですから、めったに会えない不思議な魔力をもった魚から普通の魚に変わってきています。太一の興奮していながら冷静になっていることも表現されています。さらに、妖怪の話にも、目を見るとその魔力にかかる話がありますが、この話でもそんな連想が生まれます。

第三問

父を破った瀬の主から普通の魚に見えてくるようになった太一は、泣きそうになりながら（心も息も苦しくなったとき）ふっと覚ったのだと想像すると面白いなと気づきました。その覚りのヒントが、子供の頃に聞いた父の言葉「海のめぐみ」と与吉じいさの言葉「千匹に一匹」、そして、「海に帰った」という言葉と「母の表情」が同時に結びついたから、ふっとほほえむことができたのだと、私は感じました。

すると、「海で生きていけます」と与吉じいさに感謝している太一の心には、この時に『いのち』のつながりの種が生まれています。『千匹に一匹・海のめぐみ』の本当の意味を「青い宝石の目」をした瀬の主に出会って『いのちのつながり…父の海に帰ったおとうがこのクエに生まれ変わっている』と覚ったという話でしょう。『千匹に一匹…この海で生きていく＝漁師として家族を養っていく』ことの意味を本当に分かったのだと思います。海のいのちのつながりを、海の環境を守ることにも気づいたのだと思います。本物の漁師に気づいたのだと思います。ですから、父のように余計なことは話さない漁師として生きつづけたのだと思います。また、父の死を事故だったと思えるようにもなったのではないかと、今の私は考えるようになりました。

ちょっと難しい話になりました。よく分からないところがあってもよいのです。私のように七〇歳になって気づいたところも、今回みなさんと授業していて気づいたところもあるのですから。

みなさんの感想文を読んで、今回の授業の流れで改めて他の学校で授業をしてみたくなりました。みなさんに勇気をもらいました。みなさんに出会えたことに感謝しています。ありがとうございます。

六か月で赤井小学校を卒業します。どんな卒業式を迎えるかは、みなさんの考えと行動で決まります。心に残る卒業式をと祈っています。